

令和3年2月18日

令和2年度 杉並区立堀之内小学校 学校評価報告書

杉並区立堀之内小学校
校長 渡瀬 穂介

令和2年度は、コロナ禍により様々な教育活動が制限を受けました。

学校評価を行うにあたって児童の実態を把握するために、各種の調査結果に基づく客観的な評価が必要です。

しかし今年度は学力・体力にかかる調査が全て中止となってしまいました。そのため、児童の実態把握については教員による見取りや、市販ワークテストを活用した到達度テストなどの状況を見て、判断するほかはありません。また、特別な状況であるだけに、学校評価の結果自体もそうした状況を加味した評価となっていることを念頭に置く必要があります。

1 教員による自己評価（学校評価）から

今年度、様々な活動制限がある中で行事の在り方を再検討しました。特に準備や練習に時間をかけてきた運動会や展覧会などの大きな行事について、精選する形での実施となりましたが、保護者や児童の満足感も予想以上に高く、教育内容を見直すきっかけとなりました。

諸会議等についても工夫して精選や短縮を行ったことで、結果的に業務改善につながったこともありました。

学力の保障という点では指導時間が減ったり、活動の制限があつたりしたことで難しさを感じましたが、児童が学ぶ楽しさを感じられるようにできる限りの工夫をしてきました。次年度に向けて、「学びの構造転換」を目指すという目的をもって、指導の改善に取り組むこともできています。

2 保護者による評価から

教育調査の結果から

①杉並区共通問題の結果

※令和元年度から令和2年度への経年変化

No.	領域	質問	肯定率	否定率
1	学校経営	子どもの学校生活は、全体として満足できるものである。	80.9%→80.5%	6%→6%
2		連携する小・中学校による小中一貫教育（小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等）が進められている。	40.5%→20.9%	26%→32%

3		学校は、自校の教育活動に関する評価結果とそれに基づく改善策等の情報を提供している。	65.2%→ 53.6%	9%→13%
4	学習指導	学校では、子どもが安心・安全な学校生活を送ることができる学級づくりを行っている。	77.6%→ 83.0%	8%→3%
5		子どもは、学校の授業を通して、分かることやできることが増えている。	86.1%→ 86.4%	3%→2%
6		学校は、子どもの学習状況を適正に評価している。	76.3%→ 75.6%	4%→6%
7		学校は、ICT機器（電子黒板やデジタル教科書等）を活用した授業を行っている。	81.7%→ 78.6%	3%→7%
8	道徳教育	子どもは、学校での生活を通して、他者と共によりよく生きるための力が育まれている。	76.3%→ 79.5%	5%→4%
9	体育・健康教育	子どもは、学校での生活を通して、体力や食、生活習慣をはじめ健康な生活を送る力が育まれている。	80.4%→ 85.%	4%→3%
10	特別支援教育	学校は、子どもたちの発達に関する課題など、障害理解を深める情報を提供している。	37.4%→ 34.7%	18%→17%
11	地域と共に在る学校	学校は、家庭や地域と連携・協力して教育活動を行っている。	76.5%→ 64.8%	7%→9%

※杉並区共通調査設問の得点は「肯定・やや肯定・どちらでもない・やや否定・否定」の5段階に加え、未回答が選択できます。この表の肯定率は「肯定+やや肯定」で表し、否定率は「否定+やや否定」で表しています。「どちらでもない」、「未回答」はいずれの得点にも入らないため、肯定率+否定率は100%なりません。

本年度は新型コロナウィルスの流行により、長い臨時休校期間がありました。また様々な活動制限があり、これまでの教育活動と大きく変わっています。

学校生活全般の評価では、様々な制限があったにもかかわらず肯定率・否定率ともにほぼ変わっていません。これは一つには教職員ができる限りの工夫や努力をして学校生活の充実を図ったことと、保護者の皆さまがこの厳しい状況を鑑みて、学校ができる努力を行っていると捉えていただいたと思います。

この傾向は、学習指導や体育指導などにもみられると考えます。やや肯定率を落としたICT教育の取り組みは、休校中のリモート学習など、全国的な状況に対して十分に期待に応えられなかつた面があると考えます。ただその点においては、環境整備や区の法整備の問題が大きく、区も最大の努力をしているところです。

大きく肯定率を下げた小中一貫教区、地域との連携はいずれもコロナによる制限のため活動ができていません。そのため、やむを得ない数値であると考えます。これは区内他校の調査結果でも同様の傾向が出ています。

学校評価については、やはりコロナによる様々な制限下で、学校公開や保護者会などで学校の取り組みを十分にお伝えする機会が失われていることが大きいと思います。メールやお便りでの発信を増やすことを目指してきましたが、反面そうした紙面等での発信ではなかなか内容がお伝えしきれないのも現実です。

ネット配信などの方法も、現在の杉並区の規定ではできないものが多いのですが、今後法整備や環境整備が進む中で、こうした分かり易い情報発信ができるようになると期待しています。

②学校独自問題の結果から

12	コロナウイルス対策	新型コロナウイルスの流行に伴う学校の対応に満足している。	71.7%
13	経営方針の理解	学校の取り組み(ユニバーサルデザイン、お日さまの指導、情報公開など)に満足している。	54.7%
14	学習指導の充実	学習の指導に満足している。	70.4%→ 73.6%
15	体育指導の充実	体育の指導に満足している。	74.7%→ 71.0%
16	道徳的指導の充実	心を育てる指導(道徳や生活指導)に満足している。	72.9%→ 68.3%
17	いじめをなくす指導の充実	いじめをなくす指導に満足している。	52.1%→ 52.9%
18	体験的学習の充実	行事(遠足、社会科見学、体育的活動発表会など)や特別授業に満足している。	86.6%→ 66.4%
19	安全・安心対策	学校内や登下校時の防犯、安全対策に満足している。	81.2%→ 71.7%
20	対応力の充実	困りごとの相談への対応に満足している。	63.4%→ 64.6%

学校独自調査の結果については、12と13は昨年度と質問の内容を変えたため、昨年のデ

ータがありません。

この表では否定率を載せず、肯定率についてのみ記載しました。これは、調査用紙の不備から「やや肯定」未満のデータが不正確である可能性が高くなってしまったからです。

学校独自質問にいただく評価は、あいまいさを避けるため、4点「肯定・やや肯定・やや否定・否定」でお答えいただくようにお願いをしています。ところが、回答用紙に杉並区共通の5点評価と同じ様式を使ったため、5点で評価された方が複数入っていることが分かったためです。

このことによって、5点評価で真ん中の「どちらでもない」を選んだつもりで「やや否定」にしてしまった方が多く含まれてしまいました。これは、回答用紙をあらかじめ4点にせず配布してしまったために起きた間違であり、準備が不十分でした。大変申し訳ありません。昨年度の得点も見直したところ、同様のミスがあったことが分かりました。

そのため、同じ問題については肯定率のみの経年変化を追います。

概ね昨年と同じような傾向を示していますが、やはりコロナの影響で様々な体験的活動の制限があったことで、「18 体験的活動の充実」は大きく得点を落としています。

また「19 安全安心対策」も10ポイント近くの得点を落としています。コロナに対する不安感が影響していると考えられます。

一方、教員による知徳体の指導については、大きな変動が見られず、コロナ下での取り組みに評価をいただいていると感じます。

3 学校関係者評価委員会による関係者評価

教育調査の結果やこれまでの学校報告、学校だより等による学校運営の様子をもとに、学校関係者評価委員会で、今年度の活動及び来年度に向けた方向性について、評価をいただきました。

- 教育調査の結果は、同じグループ（学年）の経年変化を比較した方がいいのではないか。
- 個に応じた指導の肯定率が学年によって極端な差があることの原因を探りたい。
- 教育の方針「お日さまの指導」などの取り組みが、保護者に伝わっていないのではないか。朝会などで、児童に具体的に周知を図った方がよいのではないか。
- 小中連携は6年生になって始まるものではなく、小1から始まる。中学生と児童とのかかわり、触れ合いを増やしていくことが必要である。
- 来年度の、学びの構造転換の方向性は良いと思う。個々の成長に寄与する方向性である。
- 地域との連携は地域の人材を学校に招くだけでなく、教員が地域を理解し、自らが教材化することも必要なのではないか。

などの評価をいただきました。また、コロナ禍の中で、現場の教員を始めとして学校が児童に充実感を与える努力を最大限に払ってきたことについても評価をいただきました。引き続き、次年度の学校経営に生かしたいと考えます。